

令和 6 年度第 1 回瑞穂市人権尊重のまち推進審議会

日時 10月7日(月) 13:30～15:00

場所 ココロかさなるCCNセンター 2階 交流ルーム

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 会長及び副会長の選出
- 5 議事

【増田会長】

それでは、議事 1 瑞穂市人権尊重のまち推進審議会の概要についてを議題とする。では事務局に説明を求める。

【事務局説明】

【増田会長】

続いて、議事 2 人権に関する取り組みについて（市および関係団体）を議題とする。では、最初に事務局から取り組みについて発表を求める。

【事務局説明】

【増田会長】

1948 年 12 月 10 日は、国際連合で初めて世界人権宣言が採択された日であり、12 月 4 日から 12 月 10 日までは全国で人権週間となっている。人権週間に、人権講演会および市内の小学校で人権教室を実施する。人権週間ではないが、中学生には人権作文を書いてもらう機会を設けている。

また、昨年度は、水澤心吾さんによる「決断命のビザ」という一般市民対象の一人芝居の公演があったが、今年度も一般市民対象の講演などを計画していただきたい。

【大岩委員】

民生委員の活動で、高齢者および児童の見守りなどあるが、高齢者も児童も平等に扱わないといけないと思う。あいさつ運動を小学校や中学校で行うが、みんな元気に声をかけてくれてやりがいがある。さまざまな活動を通して瑞穂市の人権について勉強したい。

【新田委員】

保護司は岐阜県に 790 名おり、そのうち瑞穂市には 12 名いる。更生保護の活動では BBS 活動、更生保護女性会では更生保護施設で料理や掃除などを行う活動がある。その他、出所した者、あるいは少年院を出た者の就労を支援する事業主の会もある。

市民を対象にした活動は、社会を明るくする運動、広報車で巡回広報および駅前に啓発のぼりを立てるなどの啓発活動がある。

また、国が再犯防止等の推進に関する法律を制定し、それを受けて岐阜県における再犯防止推進計画が策定され、その後瑞穂市においても、地域福祉計画の中で再犯防止について触れていたが、具体的な再犯防止推進計画ができるという。

【伊藤委員】

学校内における取り組みを大きく 4 つあげる。1 つ目は響きあい週間、2 つ目は教科指導、3 つ目は教員の研修、4 つ目は地域とのつながりです。

多様な人権施策の推進で人々との交流や体験を通して人権教育の推進を図るよう努めている。

【林委員】

我々の団体は、身体障害 1500 名と知的 460 名、それから精神 320 名の障害者団体として活動している。人権に関する部分では、毎月、身障の相談日を設けている。相談者は少ないが、少ない相談者への対応も大切にしていきたい。

【菊島委員】

私の住む地域では、外国人のかたが増えてきた。第 2 次瑞穂市人権施策推進指針概要版の 7 ページの外国人に関わる人権施策を推進していきたい。

【新井委員】

老人クラブの活動は、文化活動、スポーツ、芸能大会、歌祭りなどがあり、人権というより誰もが尊重して支え合う地域づくりを全体としてやっている。

【赤尾委員】

PTA で人権をテーマにした活動は少ない。子どもたちは人権教室など学校で人権について学ぶ機会があり、大人よりも人権に対して敏感になっている。

子どもよりむしろ私たち大人が人権について正しく理解して子どもたちに伝えていくことが重要なことで、大人が人権を尊重して多様性や認め合う姿を子どもたちに見せることが大切だと思う。

今後は行政や学校との連携を強化していき、人権について充実した教育をしていきたい。

【江間委員】

今後の取り組みとして、女性の人権に関する学習、講演会やワークショップのようなものに取り組んでいきたい。

【増田会長】

公募委員のかたに感想などを聞きたい。

【豊田委員】

子どもたちの朝の登校の見守りと地区社協の役員、ちよつとつながり隊のボランティアをやっている。このようなボランティア活動を通じて、高齢者あるいは障害のあるかたとこれからも接していきたい。

【高橋委員】

意見はありません。

【棚橋委員】

子どもたちの登校時の見守り活動とサロンも 7 年ほどやっている。その中で、登校班の中に入れない子がいるので心配している。そういった場合に、どこまでその子の両親にお声掛けしていいのかと日々悩んでいる。サロンでは、ある女性は、ご主人が亡くなったとたんにすごく明るくなった。女性の人権というのは何かそういうところから垣間見えるような気がした。また、この地域は新しいかたが引っ越してきているので、新しいかたがなじめるよう、なるべく顔を合わせたらお声掛けをするようにしている。

【増田会長】

不登校気味の子について、本田小ではどんな取り組みをしているのか。

【伊藤委員】

その子がどのような課題を抱えていて、どのように対応すべきかということを、保護者、学校および教育委員会とも連携を取り、1 人 1 人の課題特性に応じて支援している。

【増田会長】

サロンの関係で棚橋委員から高齢者の話題が出た。独居高齢者は私の周りにもいるが、人との関わりを求めている。関わり方には工夫がいるかと思うが、瑞穂市老人クラブ連合会の新井会長はどう思うか。

【新井委員】

独居高齢者でも女性は積極的にコミュニケーションをとっているが、男性は活発には行動しない。引きこもっている人が多いと思う。電話して喫茶店に誘い、コミュニケーションを図ることもある。

【増田会長】

外国人のかたとの関わり方のお話がありましたけど、子どもよりむしろ大人のほうが、関わり方、向き合い方および多文化のことを理解する必要がある。市全体の課題ではないか。

【新井委員】

国際交流瑞穂の会員で、オレゴンの子どもたちを瑞穂市内にホームステイさせて、中学校などいろんな場所を訪問するということを実施している。瑞穂市も外国人のかたが増えてきているので、外国人のかたたちと上手にコミュニケーションをとっていけるような地域づくり、共生社会をつくっていかないといけない。

【増田会長】

他にご意見があるかたがみえたら、ぜひ発言を。

【林委員】

人権と随分と関わりがある優生保護法について、今まであまり障害者団体でも取り上げてこなかったが、これと向き合っていかなければいけない。

【増田会長】

最後に武藤先生から、我々の交流や実践をしていることをお聞きになって、ご意見をお願いします。

【武藤副会長】

いろいろな人権にかかわらず活動を体験していて、ご自身の人権が他者の人権に抵触する場合もあるということを考えていく必要がある。そういうことをみんなで考えられるような仕組みづくりというのをしていかなければいけない。そういう取り組みが総合的な人権意識の高揚にも繋がっていくと思う。

話は変わるが、子どものころから国際人権デーとはいったい何だろうと思っていた。東京出身ですが、東京ではこういった教育を全く受けずに育ってきた。皆さんの取り組みは本当に素晴らしい。

【増田会長】

先生ありがとうございました。では、その他ご意見はあるか。

【豊田委員】

ちょっとつながり隊をしていて、ごみステーションまで足が悪くて捨てられないという問題がある。隣の自治会のごみステーションなら近いので捨てられるが、隣の自治会はだめだといい、市もだめという。ごみを処理しないとゴミ屋敷になる。これはボランティアだけでやる問題じゃない。市あるいは社協および関係者で対応していかないといけないと思う。

【健康福祉部長】

市としてもどのように進めていけばいいのかというところを日々悩んでいる。一番いいのが、自治会単位あるいは班単位で助け合って出してもらうことだと考えている。ただし、瑞穂市は自治会加入率が低く、なかなかそれに至っていないということもある。市としては、そのような問題を、自治会などいろいろな団体に問題提起をしながら、連携して進めていきたい。

【武藤副会長】

一般論として申し上げますが、自治会加入とゴミ捨ての問題は、行政システムそのものの問題ではないか。新しいルール作りをしていかなければいけない。

【豊田委員】

検討は皆さんしているが、結果が出てこない。そのままになっている。ゴミ屋敷といわれるお宅がどれぐらいあるかというのはどこで把握するのか。

【健康福祉部長】

包括支援センター、自治会の方および民生委員など、いろいろな情報は日々市役所まで入ってきている。

【増田会長】

本日での意見や課題を踏まえて、事務局の方と次の審議会の内容を検討していく。
では、議事を終了する。

【事務局】

本日での意見や課題を踏まえて、次回の審議会の内容等を検討します。

人権尊重のまち推進審議会は、まったく新しい審議会です。本日いろいろな意見をいただいて、ある程度道筋が見えました。この審議会の役割の1つに、市民のかたへの人権の啓発があります。これからも積極的に人権施策を推進していきたい。

閉会